

「郷土の音楽Ⅰ」 シラバス

	学 科	学 年	科 目	単位数	必修 ・ 選択
教 科 名	音楽科	2、3年	郷土の音楽Ⅰ	2単位	
教 科 書	沖縄三線初歩入門 著者：門内良彦 楽しい沖縄三線教室 著者：山内昌也		補 助 教 材	学習プリント	

1 教科の目標（講座のねらい）

- ・ 様々な郷土の音楽に触れることや、幅広い郷土の音楽の活動を体験することを通して、生涯にわたって郷土の音楽や様々な音楽を愛好していこうとする気持ちや態度をはぐくむ。
- ・ 音楽を形づくっている要素やその働きによる特質や雰囲気などを知覚・感受して、創造的に表現したり鑑賞したりする能力を伸ばす。
- ・ 日本及び郷土の様々な音楽に触れ、楽曲そのものだけでなく、その背景となる文化や歴史についても理解を深め、広い視野で音楽を捉えられるようにする。

2 育てたい生徒像

「郷土の音楽Ⅰ」では、生涯にわたって郷土の音楽や様々な音楽に親しんでいくための基盤となる力を育てたい。そのために第一は、主体的に音楽にかかわろうとする態度を育て、音楽を多様な観点から楽しむ方法を身に付けさせたい。教材や活動を教師の側から示すだけでなく、生徒自らの発想で学習活動を展開する工夫を行う。第二には、郷土の様々な音楽に親しませ、広い音楽的視野を身に付けさせたい。生徒が日頃慣れ親しんでいる音楽以外のもののよさやおもしろさに気づかせるとともに、音楽の背景にある文化や社会とのかかわりにも目を向けさせ、それらの価値について理解を深めるよう指導していく。

3 授業の内容と学習方法

- (1) 様々な郷土の音楽を幅広く体験し、声や楽器による多様な音楽表現があることを知り、曲種に応じた発声の特徴や郷土の様々な楽器の音色や奏法の特徴を理解する。
- (2) 音楽を形づくっている要素やその働きが楽曲の特徴にどのような役割を果たしているかを、表現や鑑賞の活動を通して理解する。
- (3) 様々な地域の方言の違いや、琉球民謡や古典音楽の詩や曲に込められた思いやメッセージを感じ取りながら、沖縄の本島や離島の方言による歌唱表現や鑑賞の活動を行う。
- (4) 日本の伝統音楽や日本の各地域の様々な民謡等の音楽の形成過程を歴史や地域の文化的背景から探る。
- (5) 三線や和楽器の基礎的な奏法を身に付けるとともに、声や楽器を用いた様々なアンサンブルに取り組む。

3 評価の観点と方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度 (a)	音楽を愛好し、音や音楽に関心を持ち、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度、出席 ・ 提出物 ワークシート、プリント 鑑賞カード ファイル ・ 実技試験 ・ 期末考査
芸術的な感受や表現の工夫 (b)	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的な音楽活動の工夫をする。	
創造的な表現の技能 (c)	自己のイメージをもち、創造的な表現をするための技能を身に付けている。	
鑑賞の能力 (d)	多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。	

4 授業計画

月	領域 / 時間	題材名 / 教材	題材のねらい	指導内容 / 評価
4 5 6 7	表現 / 20 時間	題材 「三線を弾いてみよう」 教材 ・ きらきら星 ・ 涙そうそう ・ 海の声 ・ 安波節 ・ 安里屋ユンタ ・ 島人ぬ宝	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三線の正しい持ち方や構え方、音の出し方を習得する。 ・ 工工四の読み方、勘所の場所を覚え、簡単な曲を演奏する ・ 三線の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏する。 ・ 琉球民謡を歌うための姿勢や呼吸法、発声法に気をつけて、楽曲の特徴を感じ取り、イメージをもって歌う。 	評価基準 <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲に応じた発声で、歌詞や曲想に関心をもち、意欲的に歌唱表現をしている (a) ・ 自ら進んで楽器に取り組もうとしている (a) ・ 曲想や歌詞を理解し、その美しさを感じ取り表現を工夫している (b) ・ 三線の特徴を理解し、基礎的な奏法を身につけ、音色や奏法の特徴を生かして演奏することができる (c) ・ 曲にふさわしい発声や奏法で表現している (c) ・ 三線の特徴や音色を理解し、音の響きやそのよさや美しさを味わっている (d)
	鑑賞 / 4 時間	題材「様々な沖縄の音楽や芸能に親しもう」 教材 ・ 谷茶前 ・ 繁盛節 ・ 豊年音頭 ・ 仲順流り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄の様々な音楽を文化的・歴史的背景や、表現の特徴を理解して鑑賞する。 ・ 生徒からのリクエスト曲も鑑賞し、普段から自分たちが聞いている曲についても曲の構成や雰囲気をつくり上げている要素などを知覚し、それらの働きを感受して鑑賞する。 	評価基準 <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な沖縄の音楽に積極的に触れ、声や楽器の特性と表現上の効果、楽曲の歴史的背景などに関心をもち、意欲的に聴いている (a) ・ 曲の構成や雰囲気をつくり上げている要素などを理解し、それらが生み出す曲想や美しさ、特徴を感じ取っている。(d) ・ 様々な音楽の特徴を感じ取り、そのよさや美しさを味わっている (d)

9 10 11 12	表現 /24時間	題材「琉球民謡や古典音楽を演奏しよう」 教材 ・瀧落菅攪 ・童神 ・三線ぬ花 ・ていんさぐぬ花 ・島唄 ・花ぬ風車 ・かぎやで風節	<ul style="list-style-type: none"> ・三線の正しい持ち方や構え方、音の出し方を習得し、工工四の読み方、勘所の場所を覚え、様々な沖縄の音楽を演奏する ・三線の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏する。 ・琉球民謡を歌うための姿勢や呼吸法、発声法に気をつけて、楽曲の特徴を感じ取り、イメージをもって歌う。 	評価基準 <ul style="list-style-type: none"> ・曲に応じた発声で、歌詞や曲想に関心をもち、意欲的に歌唱表現をしている(a) ・自ら進んで楽器に取り組みようとしている(a) ・曲想や歌詞を理解し、その美しさを感じ取り表現を工夫している(b) ・三線の特徴を理解し、基礎的な奏法を身につけ、音色や奏法の特徴を生かして演奏することができる(c) ・曲にふさわしい発声や奏法で表現している(c) ・三線の特徴や音色を理解し、音の響きやそのよさや美しさを味わっている(d)
	鑑賞 /6時間	題材「沖縄の芸能や音楽に親しもう」 教材 ・瀧落菅攪 ・手水ぬ縁	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の様々な音楽や伝統芸能を文化的・歴史的背景や、表現の特徴を理解して鑑賞する。 ・郷土の音楽、琉球民謡、琉球古典音楽を鑑賞し、歴史や背景など理解を深める琉球音楽の楽しさ奥深さを味わう ・生徒からのリクエスト曲も鑑賞し、普段から自分たちが聞いている曲についても曲の構成や雰囲気をつくり上げている要素などを知覚し、それらの働きを感受して鑑賞する。 	評価基準 <ul style="list-style-type: none"> ・組踊の諸要素に興味を持ち、理解を深めながら鑑賞に主体的に取り組もうとしている。(a) ・組踊の歌やせりふの発声、楽器の音色の特徴と表現上の効果との関わりに関心をもち、鑑賞や調べ学習、発表に主体的に取り組もうとしている。(a) ・組踊を形づくっている要素(せりふ・踊り・音楽・物語・舞台様式)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、組踊の特徴を理解し、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている(d) ・様々な沖縄の音楽の特徴を感じ取り、そのよさや美しさを味わっている(d)
1 2 3	表現 /8時間	題材「早弾きに挑戦しよう」 教材 ・チョンチョンキジムナー ・オジー自慢のオリオンビール ・唐船ドーイ ・ヒヤミカチ節	<ul style="list-style-type: none"> ・三線の奏法を習得し、カチャーシ一等の早弾きを演奏する ・三線の音色や奏法の特徴を生かし、早弾きのリズムを感じ取り、表現を工夫して演奏する。 ・琉球民謡を歌うための姿勢や呼吸法、発声法に気をつけて、楽曲の特徴やリズムを感じ取り、イメージをもって歌う。 	評価基準 <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の伝統音楽や民謡に関心をもち、意欲的に器楽表現をしている(a) ・曲の背景や表現上の特徴を知覚し、それらが生み出す美しさを感じ取って表現を工夫している(b) ・琉球民謡の発声法や三線の奏法を身につけ、創造的に表現しようとしている(c) ・沖縄の伝統音楽や民謡の声や楽器の音色を味わおうとしている(d)

<p>表現鑑賞 /8時間</p>	<p>題材「郷土の音楽の合奏に挑戦しよう」</p> <p>教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三線 ・太鼓 ・箏 ・ギター ・キーボード 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを作ってコンサートを行うことでアンサンブルの楽しさを味わう ・1・2学期で学習した音楽の知識や、歌唱、三線の技術を生かして、創造的な表現や演奏を目指す ・コンサートで互いに鑑賞しあうことで音楽のよさやアンサンブルのよさを味わう 	<p>評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いに協調し合って音楽を作り上げようとしている (a) ・互いの響きの特徴を感じ取り、そのよさを感じ取ろうとしている (b) ・音量や曲想などにも留意しながらアンサンブルで創造的に表現しようとしている (c) ・アンサンブルの特徴を感じ取り、そのよさや美しさを味わっている (d)
----------------------	--	--	--